

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 き・き		
○保護者評価実施期間		2024年12月21日	~ 2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間		2024年12月21日	~ 2025年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月22日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の経験値が高く、利用児一人ひとりの個性に寄り添いながら支援ができる。	集団活動や個別活動の計画内容が豊富で、ステップアップしながら常に新しい活動を準備している。	活動の内容をアプリを使用して保護者へ発信し、意見を求めていく。
2	共生型施設（同じ施設内に地域の高齢者通所施設有り）のため、地域の方との交流がいろんな場面でできる。	お会いした方に気持ちの良いあいさつをすることや、季節ごとに交流する機会を設け発表する活動を実施している。	地域の行事への参加も行いたい。
3	全職員が笑顔で子どもたちを受け入れ、安心できる環境を作っている。	連絡帳にてその日の様子を伝えながら、家庭との情報共有を積極的に行っている。	アプリを導入し、事業所での様子を写真で送ることで保護者にも安心してもらう。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内に個室が無いため、クールダウンや年齢別のクラス分けに支障がある。	施設の構造上の問題である。	パーテーションやミニテントなどを使用して個別の空間を準備している。
2	男性職員が1人のため、同性対応が十分ではない。	入職へのアピールを各方面にしているが、人口の少ない地域のためか反応がない。	今後も、魅力的な就労場所だとアピールしていく。
3	なし	なし	なし

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		多機能型事業所 き・き						
		公表日 2025年3月31日						
		利用児童数 23名 回収数 20 (87%)						
		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15	2	1	2		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19			1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19			1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20					
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18			2		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18			2		
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17	1		2		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	1		3		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18			2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19			1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	11	2	1	6		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	2		3		
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができると思っていますか。	17	1		2	こちらの質問に対して回答が欲しい。	・対応したスタッフがすぐに回答ができない時は、一旦質問事項を事業所内に持ち帰り、検討していく。その後、早急に回答をご家庭に連絡していくように全職員に周知済。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	3		2		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	2		1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	3		2	・なかなか参加ができていない。 ・きょうだい同士の交流は明確にはわからない。	・令和6年度は2カ月に1回、家族会を開催した。夏祭り時は、飲食スペースも確保し家族間の交流も見られた。次年度はゲーム性のある行事で交流を深めたい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	2		2		

	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思われますか。	16	3		1		
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	14	1		5	・見たことがない。	・「多機能型事業所き・き」単独のホームページではないために分かりにくいと思う。令和7年度より、アプリを使用して連絡・情報・活動支援などを発信していきたい。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17	1		2		
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18			2		
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18			2		
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	1		2		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15	2		3	・療育事業所で他児に噛みついたことを保育園から聞いた。	・利用中の出来事はすべて説明責任があると思っている。まずは保護者へ連絡することを徹底していきたい。
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	19			1		
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	19		1			
	29 事業所の支援に満足していますか。	18	1		1	・家ではできない活動をしてもらっているので、もう少し参加出来たらと思っていいる。	・1日の利用入数が10名と決まっており、利用希望の日に参加できなかったとの声を頂いている。新年度に向けて、利用人数の変更手続きを申請中。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	多機能型事業所 き・き
------	-------------

公表日 2025年3月31日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		面積等の設置基準は十分満たしている。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	指定基準以上の人数の職員（保育士、児童指導員、看護師など）を配置している。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	その日の活動内容に合わせた道具を準備するようしている。視覚的に情報が多くなりすぎないようにしている。・前庭のフェンスの取り付けは終了した。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		感染症予防対策として、利用時間終了後は毎回清掃を行い、アルコール消毒で完了としている。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	相談室を使用しているが、複数の子どもに対して個別の部屋がないため、パーテーションを使用することもある。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	定例のスタッフ会議や、朝礼・終礼時に行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	1年に一回、保護者・職員向けのアンケートを実施している。頂いた意見に対して迅速に対応し、業務改善に努めている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定例のスタッフ会議や、定期的な面談などを活用して職員全員の声が業務改善に繋がるようにしている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修や勉強会に積極的に参加している。全職員が数回参加できるように周知している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		2025年3月に弊社のホームページ内にて公表済み。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		少なくとも6ヵ月毎には保護者との面談を実施している。また、送迎時の保護者とのやり取りや連絡帳も活用し、計画書へとつなげている。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援会議を定期的に開催し、各職員の意見を反映しながら計画書作成を行っている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		全職員が放課後等デイサービス計画を理解し、子どもたちへの支援を行うことが重要であると認識し実施している。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の記録を重視し、確認している。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		5領域も理解しながら、支援内容を設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		月2回のスタッフ会議の中で、必ず翌月の活動プログラム内容を打ち合せている。活動一つ一つの担当チーフを決めて計画書も作成している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		同上	

	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	利用児一人ひとりの特性・個性に合わせて、スマーロルステップで作成し、支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼時に担当職員から内容や支援目的の説明があり、各職員の役割についても支持出しがあり確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後すぐに支援時の利用児の様子を記録する際に、同時に支援の振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	同上	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		少なくとも6ヶ月毎には保護者との面談を実施している。また、送迎時の保護者とのやり取りや連絡帳も活用し、適切な見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		自立支援と日常生活の充実のための活動や、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供の組み合わせを意識して行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		宿題支援の際の場所決めや、タイムスケジュールなど生活中でいろいろな選択をし決定できる場面を設定し支援している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		児童発達支援管理責任者や利用児の担当職員、または医療的配慮が必要な児童の際は看護師が参加するなどしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	整えている。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	5	1		
	29	質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	5	1		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	1		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		積極的に行っている。研修への参加や当事業所への来所研修も実施している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		地域施設（図書館や体育館、運動場）などを利用し、地域の子どもとの交流する機会を設けている。	
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	送迎の際に話したり、連絡帳を活用している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		児童発達支援センター発信の情報は周知しているが、事業所内でのペアレントトレーニング実施は準備中である。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に運営規定と重要事項説明書を用いて、利用者負担などの説明を行いサインを頂いている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		契約時に重要事項説明書の中にこれに関して記載があり、説明を丁寧に行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		保護者への説明時間を事前に設定し、対面で丁寧に説明を行っている。	
△	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		事業所内相談室や居宅に伺い対面での相談や、時には電話での相談や助言を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		2カ月に一度、家族会を開催し保護者間の交流を行った。きょうだい同士の交流は十分ではなかったため令和7年度の家族会では工夫して取り組みたい。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		送迎ミスにより利用児・ご家族へ迷惑をかけてしまった。関係機関への報告と家族会にて周知を行った。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		「きりんたより」を毎月発行し、子どもたちの活動風景なども発信している。令和7年度よりアプリを活用する予定。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		支援会議等にて持ち出す情報は必要なものだけにし、保護者に許可をもらっている。また、鍵付き書庫にて保管し、全職員が周知している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		分かりやすいプリント作成を行い、連絡事項の周知をメールや電話でも行うようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		秋祭りやイベントなどを開催し、いつでも施設見学してもらえるように案内している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	各マニュアルは作成済み。また、事業所としての対応をプリントにて全家庭に配布済み。消防署立ち入りの訓練も年2回実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		業務継続計画（BCP）は作成済み。消防署立ち入りの訓練も年2回実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約後、アセスメント表への記入をお願いし職員に周知している。また、看護師が2名勤務していることで家族への聞き取りも丁寧に行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	契約時に保護者への聞き取りを行い、看護師との情報共有の体制を整えている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		毎月、いろいろな避難訓練を行うとともに、職員の役割担当も決まっており安全面に配慮した支援を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		予測不可能な出来事があった場合の避難場所の周知はしている。また、令和7年度よりアプリを活用し、タイムリーに情報を共有する予定。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事業所内のヒヤリハットへの記録を適時行っている。また、会社内（他部署）での共有も行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		定期的に研修の機会を設け、全職員が受講している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行ふかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		身体拘束マニュアルを作成済み。また、利用児の特性を考慮しながら保護者との情報共有を図り、全職員で理解し対応していく。	